

令和7年度

教職課程

自己点検・評価報告書

鶴見大学大学院 文学研究科

令和8年3月

## 鶴見大学大学院 教職課程認定学部・学科一覧

文学研究科（日本文学専攻、英米文学専攻、文化財学専攻）

### 全体評価

鶴見大学大学院文学研究科は、日本文学専攻、英米文学専攻、文化財学専攻、ドキュメンテーション専攻の4専攻から構成され、うち日本文学専攻、英米文学専攻、文化財学専攻の3専攻において、教育職員免許状（専修）を取得することができる。免許状の種類は、日本文学専攻が博士前期課程において中学校教諭専修免許状（国語）及び高等学校教諭専修免許状（国語）、英米文学専攻が博士前期課程において中学校教諭専修免許状（英語）及び高等学校教諭専修免許状（英語）、文化財学専攻が博士前期課程において中学校教諭専修免許状（社会）及び高等学校教諭専修免許状（地理歴史）である。

本研究科の教員養成に関する重要な事項は、文学研究科委員会において、学則の改正、カリキュラム、講師の任免、学年暦、FDの実施、シラバスの点検等、及び下部組織である文学研究科将来計画委員会において、学則の改正、文学部と連携した教育制度を実施するための手続き等を審議し、決定している。

本研究科の各専攻は、本学文学部の各学科と一対の関係にあり、多くの教員が学部教育と大学院教育の双方に関わり、教員養成教育の連携が保たれている。学部においては教員の基礎となる教育を実践し、大学院においては専門性を高める教育を実践することで、6年間に渡る一貫した連続的な教育体制が整備されている。

鶴見大学大学院 文学研究科

文学研究科長 小林 恭治

## 目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	3
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	3
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	7
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	9
III	総合評価	12
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	13

## I 教職課程の現況及び特色

### 1 教職課程の現況

- (1) 大学名: 鶴見大学大学院 文学研究科  
 (2) 所在地: 神奈川県横浜市鶴見区鶴見2-1-3  
 (3) 教職課程の履修者数及び教員数

#### ① 職課程の履修者数

【大学院】 令和7年度(令和7年5月1日現在)

専攻名	教職課程履修者数		合計
	1年	2年	
日本文学専攻	1	0	1
英米文学専攻	0	0	0
文化財学専攻	0	0	0
合計	1	0	1

#### ② 教員数

	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	21	9	3	0	0
備考: 教職アドバイザー 1名					

#### (4) 卒業者の現況

【大学院】 令和6年度卒業者(令和7年5月1日現在)

教科	免許種	就職先状況											
		認定こども園		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校	
		正規	他	正規	他	正規	他	正規	他	正規	他	正規	他
国語	専修									1			
英語	専修												
社会	専修												
地歴	専修												

### 2 特色

日本文学専攻では、教職という高度な専門性を必要とする職業に十分な知識と能力を習得することで、社会的な責任を全うし、学術界に貢献できる人材を育成する。

英米文学専攻では、高度の専門性を有する職業に必要な能力を備えた、英語教育に貢献できる人材を育成する。

文化財学専攻では、大学院時代に経験した調査研究を生かし、実史資料

に対する取り組み方から取り扱いの仕方までの実践的な能力を生かして、  
学術的・社会的な貢献ができる人材を育成する。

## II 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

### 基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

#### 基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

##### 〔現状〕

日本文学専攻では、中学校・高等学校における国語科教諭としての十分な知識、能力を習得することを、教育の目的・目標としている。

英米文学専攻では、中学・高等学校における英語教育であっても、高い英語スキルに留まらず、異文化への広い視座を持つことは必要であるという理解を教員間で共有している。

文化財学専攻では、日ごろの調査研究を通してより専門職としての知識を身に付け、新たな課題に対応できるような実践力を身に付けた教員を養成することを目標としている。

##### 〔優れた取組〕

日本文学専攻では、高等学校の国語の授業が、主に現代文、古文、漢文の3つの教材を柱に構成されていることから、いずれのジャンルの授業においてもバランスよく、その専門的知識と読解力を十分に生徒に教授できるよう、開講科目を充実させている。教員間ではその目的・目標を折に触れて確認・共有しており、学生に対しては年度初めのガイダンスや履修登録の際に指導し、共有している。

英米文学専攻では、教員免許状取得を目指す学生は、「英語教育研究」「英語教育演習」に加えて、「英米文化演習」「イギリス文学研究」「アメリカ文学研究」「英米文化研究」「異文化間コミュニケーション研究」などの科目を履修するよう指導しており、英語圏の文化や文学、歴史や社会、芸術などへの理解を深めることで異文化への広い視座を養うことができる。また、図書館における学習アドバイザーの役割を通じて、学部学生の学修に寄りそう力を実践的に身に付けることができる。

文化財学専攻では、禅の教えに基づく人格育成と社会への奉仕という本学の建学の精神を基本理念に教員の育成を行う。そのために演習などを通じた専門的・実践的能力の向上に努める。また、TAや学部の演習授業への参加を通じて、コミュニケーション力の向上に努めている。

##### 〔改善の方向性・課題〕

英米文学専攻：教職志望の学部学生に大学院における専修免許状取得のモチベーションを持たせる取り組みが必要と思われる。

文化財学専攻：教育・研究能力の向上、専修免許状所得のために大学院へ進学する、という選択肢を示す取り組みが課題である

<根拠となる資料・データ等>

資料 1 - 1 - 1 シラバス

資料 1 - 1 - 2 「教員養成課程の理念及び育成を目指す教師像」

## 基準項目 1 - 2 教職課程に関する組織的工夫

### 〔現状〕

日本文学専攻では、現代文、古文、漢文の3分野に加え、日本語学もカバーできるように、各学問を専門とする専任教員を配置している。加えて、適宜非常勤講師を配置し、開講科目のさらなる充実を図っている。

英米文学専攻では、教員免許状取得の対象となる科目を十分な教育研究業績を有する教員および学校等において教育経験のある教員が担当している。指導教授および指導教授とは別に定める指導教員が教員免許状取得を目指す大学院生一人一人の専門的な関心ニーズに対応して学修を支援できるようにしている。

文化財学専攻では、歴史学・考古学・美術史・文化財科学の各学問分野の演習などを通じて、教育・研究能力の向上に努めている。

### 〔優れた取組〕

日本文学専攻では、開講科目の充実を図るとともに、教職希望の大学院生に対しては、授業内で扱う教材について、学校テキスト掲載の文学作品をなるべく取り上げるようにして、教材研究の側面からも研究力の向上を図っている。

英語英米文学科で学部生は2年次から英語コミュニケーション、英語教育、国際文化、英語文学の4つのコースのいずれかに所属して学修する。英米文学専攻ではこの4つのコースの領域で専門性を深めることができるようになっている。英語教育の領域の中心になるのは、博士前期課程においては「英語教育研究」「英語教育演習」であるが、教員免許状取得を目指す学生は、学部における他コースの領域に関わる大学院の科目も合わせて履修することで広く専門的な理解を深めることができる。

文化財学専攻では、文献資料学、考古資料学、美術・工芸資料学、分析・保存科学からなる特殊講義科目のA群と各分野の文化財学演習科目からなるB群、建築文化財特殊講義、日本仏教史特殊講義、文献資料演習からなるC群より、各学生の研究分野の科目を履修し専門性を深めることができる。

### 〔改善の方向性・課題〕

日本文学専攻：国語科の授業においては「話すこと・聞くこと」の指導も必要になることから、演習発表等の機会に、コミュニケーション能力の伸長も同時に図ることができるよう、指導を改善する必要がある。

英米文学専攻：大学院には、学部の「教職課程運営委員会」にあたる委員会組織のようなものは設置されておらず、教員免許状取得を目指す学生の指導について専攻間で情報共有の機会がない。

文化財学専攻：教職課程センター等の全学的組織の確立と学部の教職課程担当教員との相互的連携が課題である。

<根拠となる資料・データ等>

資料 1-2-1 履修要項

資料 1-2-2 シラバス

## 基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

### 基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

#### 〔現状〕

日本文学専攻では、学部4年生には、国語科教諭としてのさらなる知識、能力の向上を希望する者に対して、大学院への進学をアドバイスしている。また、研究職や教育関連企業への就職を目指す学生に対しても、その適性を見極めた上で、適宜教員免許の取得を勧誘している。

英米文学専攻では、英語英米文学科4年次の必修科目「卒業研究」において、大学院への進学希望者の把握に努め、適宜英米文学専攻についての情報を提供するようになっている。また、例年、7月に英米文学専攻への進学に関心を持つ学科学生を対象に進学説明会を実施している。

文化財学専攻では、倫理的・社会的責任を自覚し、専修免許状を有するに値する学生の確保・育成に取り組んでいる。

#### 〔優れた取組〕

日本文学専攻では、大学院進学のための説明会を年1回開催している。他に、教員や在学生（院生）との相談会も随時開催している。

英米文学専攻では、進学説明会に参加する学科学生は大人数ではないため、進学希望者一人一人の専門的な関心や進路についての希望に応じた説明を実施している。

文化財学専攻では、専門的調査・研究を通じて、実践的な教育に取り組めるように指導している。

#### 〔改善の方向性・課題〕

日本文学専攻：近年大学院への進学を希望する学生が少なくなっており、したがって「学生の確保」は十分とは言えない。

英米文学専攻：経済的な事情で進学を考えるのが難しい学部生も多く、結果として大学院への進学希望者が少ない。また、教員志望の学生はできるだけ早く教職に就いて経験を積みたいという希望が強く、専修免許状取得のモチベーションを持たせるのが困難な状況にある。

文化財学専攻：教員免許状を取得し、大学院への進学を志望する学生の確保が課題である。

#### <根拠となる資料・データ等>

- 資料 2-1-1 文学研究科 アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）
- 資料 2-1-2 大学院文学研究科進学相談会ポスター
- 資料 2-1-3 英語英文学会事業計画書

## 基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

### 〔現状〕

日本文学専攻では、教職を目標とする学生の意欲や適性を常に把握するとともに、研究会の開催、会報の発行により、卒業生等との情報交換を随時行っている。

英米文学専攻では、指導教授および別に定める指導教員を中心に、教員免許状取得を目指す学生一人一人の進路についての希望に応じて各自治体の採用試験情報を適宜共有し、採用試験に向けた取り組みを支援できる体制にある。

文化財学専攻では、キャリア支援課との相互的な連携を図っている。

### 〔優れた取組〕

日本文学専攻では、国語教育に携わる卒業生と在学生とで組織する「国語教育研究会」を毎年開催し、研究発表、地域の専門家等の講演会を行っている。また、同研究会は会報、会報別巻（「ひろば」）を刊行しており、こうした場を通して情報交換を行い、キャリア支援やスキルアップを図っている。

英米文学専攻では、学位論文の作成や研究の指導に加え、教職について理解を深め、実践的指導力を高めるための指導など、募集定員も少数で、その中で教員免許状取得を目指す学生がごくわずかであることから、ほぼマンツーマンで丁寧に個別指導できる体制にある。

文化財学専攻では、教職を目指す学生がほとんどいないため特別なキャリア支援は行っていないが、各学生の指導教授をはじめとした専任教員によって個別指導を充実させている。

### 〔改善の方向性・課題〕

日本文学専攻：研究会への参加人数が多いとは言えない状況なので、研究会の様子を会誌等で報告するなど、不参加者へのアフターケアの充実を図る必要がある。

英米文学専攻：募集定員が確保できていないことから、実際に教員免許状取得を目指す学生に指導することができない。

文化財学専攻：教職を目指す学生が少数である現状を踏まえ、専攻内での個別指導をさらに強化しつつ、キャリア支援課と連携して教職関連情報の共有や相談体制を柔軟に整えることが課題である。

### <根拠となる資料・データ等>

資料 2-2-1 鶴見大学国語教育研究会誌

資料 2-2-2 鶴見大学国語教育研究

資料 2-2-3 オフィスアワー

## 基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

### 基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

#### 〔現状〕

日本文学専攻では、現代文、古文、漢文、日本語学の知識を不足なく習得するために、「文献読解Ⅰ(古典)」「文献読解Ⅱ(近代)」「文献読解Ⅲ(漢文)」「文献読解Ⅳ(日本語学)」を必修科目としている。これらを通して、偏りのない国語教科の知識を担保している。

英米文学専攻では、教員免許状取得を目指す学生は、「英語教育研究」「英語教育演習」において、英語教育分野への専門的理解をさらに深めるとともに、「アカデミック・ライティング」「アカデミック・プレゼンテーション」で高度な英語運用能力を身に付け、「英米文化演習」「イギリス文学研究」「アメリカ文学研究」「英米文化研究」「異文化間コミュニケーション研究」などの科目において英語を文化や社会、歴史などの広いかかわりに置いてとらえる姿勢を育成している。

文化財学専攻では、現在、教職課程に関わる科目は設置されていないが、各分野の特殊講義や演習科目を通じて、より専門的な知識を修得して専修免許状取得者にふさわしい実践的な能力を身に付けている。

#### 〔優れた取組〕

日本文学専攻では、より専門性を深めるために、上記4分野および書誌学の専門性の高い授業を開講している。これらを通して、修士論文の制作につなげている。

英米文学専攻では、募集定員も少数で、その中で教員免許状取得を目指す学生がごくわずかであることから、ほぼマンツーマンで言語を教える教諭に必要な広い視野を育成し、目に見える事象の表面的な理解に留まらず、さまざまな背景にまで掘り下げて理解できる力を育てることに留意している。

文化財学専攻では、学生一人一人の関心・能力に合わせた個別指導と、小人数による協働・対話を重視する指導を組み合わせ、本学独自の施設設備を活用した教育を行い、独創的で高度な研究を目指している。

#### 〔改善の方向性・課題〕

文化財学専攻：今後は専修免許状取得希望者に、関連する教職科目を設置し履修を義務化するなどの取り組みが課題である。

#### <根拠となる資料・データ等>

- 資料3-1-1 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）
- 資料3-1-2 履修要項
- 資料3-1-3 シラバス

### 基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

#### 〔現状〕

日本文学専攻では、前述の「国語教育研究会」の開催や会報の刊行を通して、卒業生、地域の専門家等との交流、連携を図っている。

英米文学専攻では、専修免許状取得の対象となる科目はいくつかあるが、その中心となる英語科教育に深いかかわりを持つのは「英語教育研究」「英語教育演習」である。現状としては、英米文学専攻で専修免許状取得を目指している大学院生はいない。

文化財学専攻では、現在、教職課程に関わる科目は設置されていないが、各分野の特殊講義や演習科目を通じて、より専門的な知識を修得して専修免許状取得者にふさわしい実践的な能力を身に付けている。

#### 〔優れた取組〕

日本文学専攻では、講師陣を招くに際しては、教育の実践的な分野と学問の充実を目指す分野の二つについて、バランスを考えるようにしている。

英米文学専攻では、「英語教育研究」「英語教育演習」は、他の科目と同様に少人数での履修になることからほぼマンツーマンでの指導が可能になる。「英語教育研究」では、専門に関する英語力を培うため第二言語習得論に関する原書を教科書とし、教職に就いてからも使用できる実践的な研究力を伸ばすと同時に、教育現場においてどのようにその理論が生かされるかについて考え、発表させるようにする。また、理論については、教員から教えられるのではなく、自ら調べ、教える側に立つことで実践的指導力を身に付けるようにする。これらの能力を身に付けた上で教職に就いた際には、地域の学校において主導的な役割を担うことができる人材を育てる。「英語教育演習」では、英語教育研究における質的研究方法を学び、学位取得・専修免許取得後に中学校・高等学校の教育現場で、獲得した研究手法を用いて勤務校の学校地域の教員、勤務校の教員あるいは自分自身の教育の実際を可視化できるようにする。それにより、効果的な教育方法の検討、課題発見、問題解決ができる人材を育成する。すなわち、各々が独立した教育研究者という立場だけではなく、英語教育の改善を目指す地域ネットワーク構築においてキーパーソンとなることが期待される。

文化財学専攻では、学生が各自の調査研究を通じて、実資料に関するより専門的な知識や取り扱いの技能を深め、実践的指導力の育成に努めている。

#### 〔改善の方向性・課題〕

日本文学専攻：教材研究の専門家を特別外部講師として招聘するなど、教育の現場と直結した教育を行いたい。

英米文学専攻：本来ならば、複数の教職課程履修者がいることが望ましい。それは、お互いに生徒役や教師役を実践することで、双方の感じ方を

身に付けることができるからである。その解決のために、学部生との共同模擬授業などを考えても良いかもしれない。

文化財学専攻：地域の博物館、美術館などの活用や連携についての教授が課題である。

<根拠となる資料・データ等>

資料 3-2-1 履修要項

資料 3-2-2 鶴見大学国語教育研究会誌

資料 3-2-3 鶴見大学国語教育研究

### Ⅲ. 総合評価

文学研究科では日本文学専攻で中高専修国語、英米文学専攻で中高専修英語、文化財学専攻で中学専修社会及び高等学校専修地理歴史の教員免許状が取得できる。本研究科における教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組みでは、教員養成の理念や目標に沿って、各教科の目指す教師像を示し、国語・英語・社会・地理歴史の分野における高度に専門的な教員養成を実践している。

教職を担うべき適切な学生の確保・育成では、文学部と連携して卒業年次の授業やゼミ等、及び大学院進学説明会を通して丁寧に説明して学生を確保する努力をしているが、経済的な事情等により進学困難な学生が目立つ状況が続いており、十分な成果をあげているとは言えない。

教職へのキャリア支援では、本学キャリア支援課に配属されている国家資格のキャリアコンサルタントを有したキャリアアドバイザーと教員が連携を図り、学生一人ひとりに寄り添って自治体の採用試験情報を共有し、支援している。

教職課程カリキュラムの編成・実施では、本研究科のカリキュラム・ポリシーに基づいて、学生の潜在的な能力を発揮できるようなカリキュラムを編成し、高度に専門的な教育を実践している。

実践的指導力育成と地域との連携では、教室の授業に留まらず、教職に就いてからも活用できる実践的な指導力を身に付け、地域の学校において主導的な役割を担う人材を育成している。

以上、本研究科では、教員と事務職員の連携により教員養成に一丸となって取り組んではいるが、十分な成果が出ているとは言えない。学生の確保と高度な専門能力と実践力を備えた教員の育成等、各課題への取り組みを今後とも続けていきたい。

#### IV 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

- 2025年 9月 ・自己点検・評価について検討、報告書の作成開始（文学研究科将来計画委員会）
- 9月～11月 ・一次報告書(試案)の作成（文学研究科将来計画委員会）
- 11月 ・一次報告書(試案)の検討（文学研究科将来計画委員会）
- 2026年 1月 ・報告書の作成終了（文学研究科将来計画委員会）
- 2月 ・文学部教職課程自己点検評価委員会審議
- 3月 ・全学自己点検評価委員会審議 学長決裁  
・大学HP掲載  
・次年度の改善案の検討と決定